

## 第4回

### UD まちづくり講座の検討1\_2

#### (1) プログラム

日 時 | 7月27日(土) 13:30 ~ 16:00

会 場 | 江東区文化センター 6階 第1 ~ 3会議室

内 容 | UD まちづくり講座のアイデアを出そう

- ・第3回で出し合ったエピソードを元に、高校生に UD まちづくりについて伝えやすいエピソードや、共感してもらえるエピソードとして良い内容を検討した。

タイムテーブル |

13:30 (30分) **【発表と意見交換】** (発表 3分 × 5G)

- ・合理的配慮を中心に発表し、意見交換。

14:00 (60分) **【グループワーク3】**

- ・「合理的配慮」を高校で伝えるプログラム案の説明
- ・UD まちづくり講座のプログラム構成や内容のアイデア出し

15:00 (10分) ~休憩~

15:10 (40分) **【発表と意見交換】** (発表 5分 × 5G)

- ・UD まちづくり講座のアイデア発表と意見交換

15:50 (10分) まとめ、事務連絡、アンケート記入

16:00 終了

## (2) UD まちづくり講座の前提条件

### 1 実施概要

実施 | 深川高校の授業時間 50 分 深川高校 2 年生 1 クラス (30 人)

### 2 伝える内容

テーマ | やり方の違い (合理的配慮) を考える

### 3 大事にしたいこと

- ・ 楽しい、感じるプログラム
- ・ 高校生とのコミュニケーションの時間をつくる

### 4 プログラム案

#### ●案 1

- ・ アイスブレイク (3 分)
- ・ 3 つのプログラム (各 14 分 = プログラム 13 分 + 移動 1 分)
  - 寸劇 / ロールプレイ / ジェスチャーゲームとお話など
- ・ まとめ (5 分)

#### ●案 2

事前 | まちで発見したアイテムの写真を持ってきてもらう。

- ・ あいさつ、進め方の説明 (5 分)
- ・ 高校生もワークショップ参加者も 5 グループに分かれて、UD まちづくりマップをつくる (20 分)
- ・ 「環境の整備」と「合理的配慮」の話 (10 分)
- ・ 合理的配慮にシールを貼り、1 つを選んで 3 つのポイントを書き出す (5 分)
- ・ 発表 (1 分 × 5 G)
- ・ まとめ (5 分)

### (3) グループワークのまとめ ～合理的配慮について～

#### 1グループ

- ・ 高校生の2人から「自分の考えたことをきちんと発言できるようなプログラム」にした方が参加のしがいがあるとの感想。インプットだけでなくアウトプットできる機会があるのがポイント。参加型で進めたい。
- ・ この授業に、国際協力ボランティア部の他のクラスの子は参加できるのか。
- 水曜日の6時間目はロングホームルームという形で授業がないので、公欠という形で国際協力ボランティア部の生徒には参加できるように考えている。

#### 2グループ

- ・ 前半のワークをやってみて、大体出てくるニーズは同じだと感じ、普段やっていることが意外と合理的配慮になっていることに気づいたという意見がある一方で、合理的配慮について今回考えてみたがまだよくわからない、やっぱり区別が難しい、だからこそ高校生と一緒に考えるのは大事だねという意見があった。
- ・ 高校生対象のプログラムなら、広くまちを対象にするより、例えばコンビニなど対象を絞った方が考えやすいのではないか。

#### 3グループ

- ・ 合理的配慮の理解は、やはり難しく感じて、情報が多いし理解が追いつかない。ワークショップ参加者は自分の意思で来て理解しようと思っているが、授業でこの話が降ってきた時に、理解できないかもという懸念がある。
- ・ 去年の具体的シーンはすごくわかりやすかったもので、まずは具体的に見てもらい興味を持ってもらって持ち帰ってもらう方法がいい。
- ・ 伝えたいことが多くて、去年も二つのプログラムを受けたが、もっと絞ってもいいのかもしれない。シーンを絞った中で、そのシーンについて話し合う時間を設けるとか、そういうやり方もあるのかもしれない。

#### 4グループ

- ・ 前半のワークの感想としては、やはり合理的配慮の理解が難しい。例え前回と同じような寸劇などを行う場合も、ちゃんと説明をしないと進められないのでは。
- ・ 前半と同じようなワークだと、1クラス対象では人数が少な過ぎるのではないか。

- ・ 寸劇の内容で、障害者対障害者というシーンもあると思う。思ったよりも気づきを持ってもらえたとし、意外と楽しんでやって伝わったという実感はあった。ただシーンが多いと話が混ざってしまわないのか気になる。
- ・ その題材を最後にどう使うかが先に決まっていることで、どの手法をとった方がいいのかという、選び方ができるのでは。

#### 5グループ

- ・ 高校生に伝えるという観点に立った場合、例えば高校生同士で意見を言いやすいのは案2ではという意見が出た。しかし、今日の中で面白かったのはクイズだった、すごくわかりやすいし端的に学べた。クイズを軸にするのがいいんじゃないかという案が出た。
- ・ 今日の議論の中で、合理的配慮を考える上では「対話」が重要だという結論になったが、対話の重要性を高校生が学び取れるのかは疑問が残る。対話の重要性が一番わかる寸劇と、クイズを組み合わせることができるか、時間が足りるかみたいな議論で終わった。

#### 全体のまとめ

- ・ 前半の感想は、意外に自分が日頃やっていることの中に「合理的配慮的なこと」があるという確認ができたという方と、一方で「合理的配慮」はやっぱり難しいと思っている方がいた。

## ～グループの一押しエピソード～

### 1 グループ

- ・飲食店とドラッグストアが出てきたシーン。具体的にこれというより、まずは建設的対話を何度もして対応することが大事だを確かめ合った。「過重な負担が何か」「建設的対話はこのやり取りをすれば、本来良かったんじゃないか」を振り返った。
  - ・結局条件が整わない場合は、バッドエンドになってしまうが、できれば高校生に見せるものはハッピーエンドの方が楽しい。環境整備としてそのうちお店が対応してくれるというものもある。
- 建設的対話を十分に盛り込むということです。

### 2 グループ

- ・ドラッグストアで2階にある商品を、階段が急で店員さんが持っておりてくるケース。高校生がバイト先で普段やっていること。高校生のリアルでもあるからに加えて、寸劇にしやすいわかりやすいシチュエーション。
- ・このステップ図を書き分けるかで悩んだ、どれが過重な負担でどういう場合はそうじゃないか、店員さん側から忙しいとか言われたときにも、こういうケースだったら対応できるんじゃないかと深掘りしてみた。
- ・いずれにしても高校生が、寸劇+高校生が考えた意見交換ができるといい。

### 3 グループ

- ・レジをテーマに考えた。何人かのお客さんが入れ替わりくる。一つは車いすの方がセルフレジに手が届かない、スマホを預けてやってもらったり小銭の場合は入れてもらったり、合理的配慮が行われる。
- ・もう一つは、聞こえないので何を言われているかわからない、「筆談をしてほしい」と言ったが、外国人の店員で日本語による筆談が難しい。そんな時どうする？高校生が自分の知り合いに車いすの人や聞こえない人がいないが、外国人はリアルに感じられるという話が出た。
- ・最終的に建設的対話でどうするかは、イラストや指差しコミュニケーションカードみたいなものを作っていくことに繋がったらしいという案。

### 4 グループ

- ・それぞれのステップを、例えば1回止めて、クイズ形式にして考えてもらい、答えを出すときに説明するとわかりやすい。シーンは実話も交え、段差と車いすもわかりやすい。
- ・合理的配慮を伝えるときに、個人と事業者の二つを対比した方がむしろ合理的配慮が何かわかりや

すいかとの話もあったが、1つ選ぶならまず段差になった。

### 5 グループ

- ・聴覚障害のある高校生がもし学校にいたらというペルソナを作って考えた。「聞こえにくいので、前の方の席がいい」という意思表示がある。それに対して先生によっては「学生が近いことを嫌がることもある」、強引だがそれを荷重の負担と想定し、建設的対話で「席を前に」した。実際にあった事例を脚色して、さらに建設的対話が行われ、自己紹介において黒板に実際に書くように先生が生徒たちに指示を出すみたいな行動にも繋がっていくとわかりやすい。
  - ・聴覚障害者が集音器を用意することを表明するが、先生が面倒くさがったり忘れたりする。また他の生徒や生徒の親御さんが学校に苦情を出すみたいな過重な負担が考えられるが、建設的対話によってその誤解を解いていくと、高校生たちにとっては自分たちに近いことなので理解しやすい。
- 先生が集音器を面倒くさがったり、UD トークのマイクを忘れたりすることはあるが、基本今は拒否することはあまりないと聞く。
- 教員時代の経験からすると、一定距離を置いたところに生徒がいる環境のときに1人だけ目の前にいると、拒否はしないが何か圧迫感を感じる。

### 全体

- 1 グループ、コミュニケーションが大事、いろいろな立場の建設的対話を盛り込む。
- 2 グループ、段差の問題が出され、段差があったときのその対応を実際やっている高校生もいるからリアルでいい。
- 3 グループ、レジの話。コンビニがセルフレジになってから、便利になった人と不便に感じている人がいる。このレジでの合理的配慮の話は作れそう。事例は、車いす使用者、聴覚障害者と外国人の店員。その後、「何か気がついたことありません」と振って、ヒント的な例えば「目が見えない人はどうなんだろうね」と振って広げる方法はある。
- 4 グループ、ドラッグストアの段差、車いすの垂直移動の話に、三つのステップを示す。ステップ1、クイズ、解説、ステップ2と続いていく。
- 5 グループ、聞こえにくい高校生の話は、学校の中での話で高校生に身近か。

- 1 グループで出た「コミュニケーションが重要」というのは、とてもポイント。必ず入れてほしい。もう一つすごく印象に残っているのは、「法的な合理的配慮とは言わないけれど、私達の日常でやっていることが結構あるよね」という気づきがに繋がるものがあるといい。

## ~UD まちづくり講座へのアイデア ~

### 1 グループ

- ・案2が良いという意見も出た。案2の良さは、参加者が考えながら話す時間があること。一方、それなりに難しい内容を扱うので、説明したり伝えたりするには、案1が良い。感想や意見交換をどうやってもらえばいいかがポイント。
- ・「自分の考えたことを発言できるようなプログラム」。インプットだけでなくアウトプットできる機会がある。参加型。
- ・ロールプレイだと参加者全員が参加できない。
- ・建設的対話を何度もして対応することが大事。ハッピーエンドにしたい。
- ・利用客の想定は、視覚障害者、聴覚障害者、車いす使用者の3パターンあると良い。伝える内容は絞った方がいいが、この3つは外せない。

### 2 グループ

- ・普段やっていることの中に、意外と合理的配慮になっていることがあると気づいた。
- ・合理的配慮が必要になる手前の「環境整備」についても整理ができた。
- ・合理的配慮はまだ理解できていないが、重要なことなので高校生と一緒に考えたい。
- ・ドラッグストア2階にある商品を、階段が急で危ないので店員さんが持ってくるケースは、このグループの高校生がバイト先で普段やっていること。
- ・高校生が考えたり意見交換できるプログラム。

### 3 グループ

- ・合理的配慮の理解は、情報が多いし理解が難しい。
- ・去年の寸劇の具体的なシーンはわかりやすかった。まずは具体的にってもらい興味を持ってもらう。
- ・伝えたいことは多いがシーンを絞り、話し合う時間を設ける。
- ・寸劇案 | レジに何人かのお客さんがくる。車いすの方がセルフレジに手が届かない、スマホを預けたり小銭を入れてもらい、合理的配慮が行われる。
- ・聞こえないので何を言われているかわからない、「筆談」を依頼したが、外国人の店員で日本語による筆談が難しい。そんな時どうする？高校生に車いすの人や聞こえない人の知り合いがいなくても、外国人はリアルに感じられるという話が出た。建設的対話で、イラストや指差しコミュニケーションカードを作ることに繋がったらいい。

### 4 グループ

- ・合理的配慮の理解は難しい。前回と同じような寸劇を行う場合も、説明が必要。
- ・各ポイントで止めて、クイズ形式で考えてもらう。

- ・合理的配慮は、個人と事業者の二つを対比した方がわかりやすいかとの話もあったが、1つ選ばず段差を取り上げたい。

### 5 グループ

- ・今日、面白かったのはクイズ。わかりやすいし端的に学べた。
- ・クイズを解くだけでなく、クイズをつくる方が理解はさらに深まるのではないかな。
- ・最も重視すべきことが対話であるという、気づきを得られるようにすることが重要。「対話の重要性」がわかる寸劇と、クイズを組み合わせる。
- ・ロールプレイの方が対話の重要性を学べるのではないかな。
- ・寸劇案 | 聴覚障害のある高校生が学校で「前の席」を希望するが、先生によってはやりにくさを感じる人もいて建設的対話を重ねたり、自己紹介は黒板に書くように先生が生徒たちに指示を出すなどを考えた。

### 全体

- ・合理的配慮の3ステップのシートはよくできている。これに記載されていれば、大体どの内容も寸劇仕立てにはできると思う。
- ・「本人からの意思表示」「過重な負担」「建設的対話」の流れがすごくわかりやすい。
- ・「過重な負担」のところがわからない、「本人からの意思表示」がそのまますんなり実現できるときには、無理に過重な負担の欄を書かなくてもいいと聞いて理解した。
- ・合理的配慮を伝えるんだったら、寸劇より、この段取りを教えた方が頭にすんなり入るんじゃないかなと思った。
- ・「荷重な負担」は結局お店側の主張で、その後の「建設的対話」がお店の都合を伝えることだけじゃないところが大切だと思った。そこをうまく議論できる題材を選べるといい。
- ・合理的配慮は、個人としては義務がなくあくまでも会社や事業者の役割。高校生に伝える時に、「自分が商売してたらを想定するか」「将来会社に入ったときの対応」として知ってもらうのか。
- ・高校生であっても提供側になるという当事者意識は必要、将来の話ではないと思う。
- ・ユニバーサルデザインとしてやるのか、合理的配慮という単語にこだわるのか。
- ・横断歩道を渡るのに困っている人がたまたま隣り合わせた時、そこでの手助けは合理的配慮ではないというところが、ちょっとわからなくなる。
- ・事業者の立場でやる寸劇あってもいいし、街を歩く市民の立場での寸劇があってもいい。自分が日常やっていることも結構あると気づくことが重要。